

議 事 要 旨

会議名	第5回立川市保育のあり方検討委員会		
開催日時	令和4年2月10日(木)	18:30~20:30	開催場所 立川市役所 208・209 会議室
参加者	委員	会場参加: 米原委員(委員長)、上野委員、二瓶委員、横塚委員 オンライン参加: 宮田委員(副委員長)、野村委員、土方委員、加藤委員、飯野委員、村上委員、田中委員	
	市	三輪保育課長、江頭保育振興担当課長、和田庶務係長、大川保育指導支援係長、保育指導支援係池田	
議 題	1	開会	
	2	立川市保育のあり方に関する提言のまとめ	
	3	今後のスケジュールについて	
	4	その他	

内 容

1【開会】

【委員長】

第5回立川市保育のあり方検討委員会を始めたい。
順次、次第に沿って議事を進めていく。

2【立川市保育のあり方に関する提言のまとめ】

【委員長】

今回は立川市保育のあり方に関する提言をまとめていく。まず事務局から資料等の説明をお願いする。

【事務局】

先日メールで送付した「立川市の保育のあり方に関する提言(案)」(以降、提言(案)とする)は、第4回検討委員会でご覧いただいた「提言(案)」を基に、それまでの委員会の中で皆様に話していただいた内容をあわせて事務局で一部再構成して作成したもの。全体的に年号については、「西暦(元号)年」の表記に統一する。また、市立認可保育所と、公立保育園の表記は、前後の表現等の関係で両方が存在している。

表の文字や数字等が小さくて読みにくいものが出てしまったので、本日の委員会での意見等を伺った後、全体のページ数を調整しながら、表を拡大したり、見開きを利用するなどして、できる限り見やすくしていきたいと考える。

「提言(案)」2ページ「I 立川市の保育を取り巻く現在の状況」について、文章の変更は大きなものはないが、表などは追加や分割をしている。

4ページ「(2) 認可保育所等の入所申請児童数見込について」では、入所申請数と、入所申請率が同一の表だったが、見やすくするために2つの表に分けた。

5ページ中段より下の表、「児童の受入数の推移(認可保育所及び幼稚園分)」については、今回の「提言(案)」で追加したもので、認可保育所と幼稚園の実受入数を平成19年度から令和3年度まで表示した。

内 容

「提言（案）」6ページ「(3) 待機児童と保育を必要とする子どもの受入枠」については、平成19年度から令和3年度までの表に修正した。受入枠と待機児童数の推移を表示している。

8ページ「(4) 保育所（認可・地域型・認証・企業主導型・認可外）、認定こども園、幼稚園の設置状況」では、施設数などの合計を追記している。

16ページ「Ⅱ立川市の保育に関する課題」についても基本的な内容は修正していないが、「(1) 幼児教育・保育の質の向上について」を表題とし、①幼児教育・保育の質に関する市の考え方、②3つの視点から考える「幼児教育・保育の質」、③「幼児教育・保育の質」の確認、の3項目にまとめ、今までの委員の皆様の意見を本文中に取り込むように再構成している。

また、20ページの「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領」の表については、A4では小さすぎるので、完成時には、横にして見開きA3のサイズに修正したいと考えている。

22ページ「(2) 多様な保育サービスについて」から25ページ「(6) 園を活用した地域の子育て支援」までについても、委員の皆様の意見を本文中に取り込み、文言整理を行っている。

26ページ「Ⅲ今後のより良い保育の実現に向けた提言」については、提言内容をより明確にするため、5つの項目をあげて記載し、まとめの文章は「最後に」という形でまとめている。

委員の皆様の話し合いの内容や、意見をいただきましたら、ページ構成も含めて、全体的な調整を行っていききたいと思うのでよろしく願います。

【委員長】

「提言（案）」についての内容や確認、修正、質問等の意見をいただきたいと思う。

【委員】

保育士、幼稚園教諭を希望する人材が減っている。子どもの人数も減るが、職員の手当など市に対して要求することが多いと感じている。保護者の相談にのるなど精神的ストレスを受けている職員のケアを考えると心的な面、物的な面での処遇改善など立川市としての考えを含めた方が良いと考える。

【委員長】

保育の質を維持、向上するために、また、職員が長く勤められるような手立てがないだろうかということだと思うが提言のどこに入れるかを考えたいと思う。

【委員】

「提言（案）」26ページ「Ⅲ今後のより良い保育の実現に向けた提言」は保育士、幼稚園教諭の望ましい姿ではあるが、大変なので実行しなくなってしまうと思う。職員の働き方も含めて、立川市としてできることを模索していただきたいと考える。

【委員】

「提言（案）」23ページ「⑤病児病後児保育」について施設の拡大についての記載があるが、病児病後児保育の背景（育児背景を見ることの大切さなど）の記載がないとわかりにくい。

子どもを取り巻く健康に関する現状では、発熱をする子どもの数が圧倒的に減ってきていて、一時的な預かりでなおかつ看護師が配置されているところでの育児の相談というニーズが高くなってきており、そのような面での育児へのサポートの必要性や、ニーズのことも記載されてくると良いと思う。病児病後児保育ではニーズと供給が合っていないのでキーワードとしては「ニーズのズレ」が良いと考える。

【事務局】

「提言（案）」13ページでは病児保育の現状が記載されているがいかがか。

【委員長】

それでは記載の仕方や説明の方法を検討していく。

病児病後児保育の利用を望むケースは多いと思うので、保育所、幼稚園、小規模保育施設等でも連携したいと考えている。

【委員】

「提言（案）」「(6) 多様な保育サービスの利用状況」12ページ「④定期利用保育事業」が④となっているが、22ページ「(2) 多様な保育サービスについて」では④が「④医療的ケア児の受入れ」となっている。

内 容

いる。そのように番号が連動しているのではなく、検討の中で課題、意見があった項目を 22 ページから記載している、と読み解いてよいか。

多様な保育サービスについて 26 ページ【提言】「4. 保育サービスの適切な量と利用しやすい環境の整備を行うこと」でまとまっていて、ここでの“保育サービス“は、11 ページ「(6) 多様な保育サービスの利用状況」に記載されている“多様な保育サービス”と理解しても良いか。それとも通常の保育も含まれる“保育サービス”の一環にという意図でまとめたのか。レスパイト的なニーズや、今後、時代と共に変化していくニーズ、特徴のある子どもや課題のある子どものことなども提言に盛り込んだ方がよいと考える。また、保育の量だけでなく、保育の内容など多岐にわたり、今後検討が必要になってくることも考えられる。

【委員長】

「提言（案）」11 ページ「(6) 多様な保育サービスの利用状況」と 22 ページ「(2) 多様な保育サービスについて」の番号が連動していないのでわかりにくい。

26 ページの【提言】「4. 保育サービスの適切な量と利用しやすい環境の整備を行うこと」では保育サービスの適切な量という一般的な待機児問題で検討されてきたことだが、11 ページ「(6) 多様な保育サービスの利用状況」では具体的な内容が記載されているが【提言】の文章中がないので丁寧に表現する必要があるのではという意見でよいか。

現状として保育を必要とする子どもの数が減っていくことにより、今までよりも多様な保育の利用の仕方ということが考えられる状況になっている流れをどの様に表現し、課題としてあげていくかを検討したい。

【委員】

今後 10 年の間に様々な形態の家族が増え、働き方、育ち方の違いをケアしていくような内容の提言を前提として、多様な保育サービスが必要になってくると考える。

【委員】

「提言（案）」5 ページ下段の表「児童の受入数の推移（認可保育所及び幼稚園等分）」を付け加えていただき感謝する。前回の検討委員会の資料では幼稚園が入っていなかったが、表、数値を入れることで幼稚園の園児数が減っていることがわかり、幼稚園団体としても非常に危機感を持っている。

また、27 ページ【提言】の「最後に」の後半に“近年、乳幼児人口の減少は大きくなっているが、保育所等の利用が必要な保護者の比率は増加しており、直ちに幼児教育・保育を利用する乳幼児が大幅に減少する見込みは少ないと考えられる”とあるが、“幼児教育”というとおそらく幼稚園と判断されるが、幼稚園としては入園を希望する子どもが大幅に減少する見込みがあるので、非常に危機感を感じている。ここの表現は保育所、幼稚園全体の“保育サービス”という形にし、幼稚園も含めた内容にして頂きたい。

【委員長】

3, 4, 5 歳児 90 数%は保育所、幼稚園、認定こども園等を利用しているので、0, 1, 2 歳児の子どもが減っても 3, 4, 5 歳児の利用者率はある程度上がることを考慮した表現にしていきたいと思う。

【委員】

「提言（案）」5 ページの下段の表「児童の受入数の推移（認可保育所及び幼稚園等分）」では幼稚園の受入数が減り続けていることを心配している。大幅に減少する見込みがないのは幼稚園以外の保育所等であるという文言を入れていただきたいと考える。

【委員長】

「提言（案）」5 ページの表には認定こども園が表現されていないが、1 号認定児が減っていることがわかりにくいと感じるのでそのようなことも提言書に含めていきたいと考える。

【委員】

子どもが減っていく中で、これからの保育所、幼稚園その他様々な施設で保育内容だけでなく、運営面も含めて時代と共に望ましい姿を求めてこの検討委員会で話をしてきたと思う。少子化の社会になっていく中で、市の行政の方も保育のことだけでなくまちづくりなどとリンクして、初めて立川市の保育のあり方ということが浮かんでくるのではと思う。立川市が子育てしやすく便利なまちとなり光ってほし

内 容

いと考える。

【委員長】

報道で地方にある過疎の地域で保育所が撤退すると子どもを育てることが難しくなり、子育て家庭がいなくなってしまうという可能性が出てくるので、どのように維持するべきかという話があった。立川がすぐその様な状態になるとは限らないが、幼稚園も含めた多様な幼児教育・保育が確実にあるということで安心して子育てができることは大事なことだと思う。そのような表現は最終的な提言書に記載したいと思う。それぞれの幼稚園の建学の理念、保育理念を考慮して園を選べることも大事なことだと思う。

【委員】

「提言（案）」23 ページ「(3) 施設・園運営の課題と今後の見通しについて」の「○施設更新の方向性」では公立保育所の老朽化と、仮に建替え、整備をすると財源の確保が大きな課題ということを加えたい。この検討委員会でそのような委員の認識の上で議論したという記載も必要と考える。

【委員】

公立保育所、私立保育所の状態を知っているが、とても格差があり公立保育所では我慢していると感じるので、設備や新しいハード面を改善しなければ健康面、医療面からも非常に課題が大きいと考える。財源がかかるからという問題ではなく、構造を大きく変えなければ感染などの問題もあるので、ぜひ強調して記載してもらいたいと考えるのでその提案に賛成である。

【委員長】

施設の更新などは認可保育所、幼稚園だけではなく小規模保育施設や家庭的保育事業などにも関わることだがいかがか。

【委員】

公立保育所の老朽化は大きな問題だと思う。小規模保育事業について市内の他の小規模保育事業の施設全体を把握したわけではないが、マンションタイプなどでは保育園の考え、計画ではなく管理会社などの修繕計画などがあるので特に施設の老朽化については心配してない。

保育士の処遇改善について現状では手厚い補助を受けていると認識しているが、今後の保育士の処遇改善や保育サービスに対する手当の推移は運営上大きいので心配している。

また、完成した最終的な提言書は誰が誰に発信するのか。市から小規模保育事業などを含めた保育施設なのか、検討委員会から市に発信するのかなどははっきりしたほうが良いと考える。

「提言（案）」26 ページ【提言】の5項目それぞれのベースは様々な課題であるが、提言の内容に具体性があったほうが良いと思う。提言から具体性のあるガイドラインにリンクすると良いと考える。

【委員長】

保育士の処遇改善について現在、様々な手当等があるが今後どのくらい継続するのか、そのような処遇改善がなくなると課題が大きくなるので継続してもらいたい、ということでしょうか。

最終的な提言書について改めて確認するが、基本的に市長が委嘱した我々委員で話し合い、提言をまとめて市長に提出し、立川市全体の保育事業も含めた保育行政に資するものにしてもらいたいと考えている。

提言の項目立てについてだが、「Ⅱ立川市の保育に関する課題」で課題や意見をまとめ、「Ⅲ今後のより良い保育の実現に向けた提言」でまとめているが、繋がりがなかなか見えないので具体的にどのような点がうまく繋がっていないのか。

【委員】

【提言】26 ページ「3 途切れすき間のない支援の充実に取り組むこと」では具体的なことが記載されておらず、漠然としていて、「Ⅱ立川市の保育に関する課題」で課題として挙がっている内容が反映していないと感じた。

【委員長】

“困り感のある子ども”というキーワードは「提言（案）」23 ページ「⑩保育サービス全般」に“困り感を感じている保護者への支援”とあるが、繋がりがはっきりしていないことが1つの課題であると思

内 容

う。また、どの項目がどのように繋がっているかわかりにくいので連動してないように見えてしまう。この課題がこの文章に繋がっているとわかるように文章構成を整えていきたいと考える。

【委員】

26 ページ【提言】にたくさん課題が上がっているが具体的なことがあまりないと感じる。【提言】「2. 市全体で「ともに地域で子育てをしている」という思いを共有し子どもや子育てを支える保育の力を高めていくこと」では保育を受ける側の要望が大きいと感じる。保育を担う側の保育士や保育所のことも【提言】の項目の1つとしてあげ、委員会としての意見にしていきたいと思う。

【委員】

飯能市では子どもが生まれる前から支援していく取り組みとして、今年の4月から不妊症に対して補助金が出るようになるが、その中で“不妊治療に取り組める環境を提供します”や、“愛情を持って子育てができる環境を提供します”“長期にわたって誠実に子育てをサポートします”“子どもだけでなく親も幸せが実感できる環境を提供します”など具体的なことが示されている。26 ページ【提言】でも具体的な項目にリンクしてイメージできるようになれば文章であってもわかりやすいものになると考える。

【提言】は行政に向けてのことだが、立川市に魅力を感じて住み続けるかというところにも結びつくと思う。保護者などだけでなく誰に対しても関わることなので工夫が必要だと感じる。また、保護者からすると、ホームページなどに掲載されていると市ではこのように考えているとわかり安心する。市長に提言書を渡すことになるが、これから立川に住んで子育てをしようと考えている人たちに対しても向けてぜひ支援していただきたいと思う。

【委員長】

もう少し具体的な施策に繋がりがやすい表現があった方がいいのではないかといいことではなかろうか。

【委員】

飯能市では“子育てスマイルプロジェクト”という施策を掲げている。そのようにわかりやすい具体的な事例などをふまえた施策が見えればもう少し文章も具体的にイメージしやすくなると思う。

【委員】

この検討委員会は委員が話し合った提言を立川市政に反映するためのもので、市民向けではなく施策に直結する提言だと思うのでアピール度というのはなくともいいと思う。【提言】の中で市として市民にアピールすべきであると、最後に加えてもいいかもしれないが、提言そのものにはアピール度は必要ないと思う。

課題と提言の連動だが、16 ページ「Ⅱ立川市の保育に関する課題」(1)～(6)に対する【提言】という文章構成の方がやはりわかりやすく、保育所側の課題などは「Ⅱ立川市の保育に関する課題」の中に新たに(7)とした方がわかりやすいと思う。文章構成などは委員長、事務局に任せる。

【委員長】

文章構成などの工夫が必要ではないかという提案でいいか。課題に対して具体的な記載があり最終的な提言書としてまとめていく構成になるが、委員からの提案は取り入れていきたいと考える。最終的には委員長、事務局に一任していただきたいと考える。

【委員】

保育士側の課題を付け加えていただきたいと思う。

【委員長】

施設、園運営の課題ということに繋がると思うので大事な項目として加えることを検討したいと思う。

【委員】

国の「子ども子育て会議」では市区町村で様々な子育て全般の施策をするようにとあるが、立川市では「夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議」を実施し現在も続けている。そこでは“保育”という1つの担当、課に拘らず、子育て全般のことを話し合っ提言書としてまとめているのでご覧いただきたい。

“保育の質“は保育のあり方の大きなテーマの1つだと考え、今後も努力していきたいと思う。また、“保育の質“については全国的にも明確な回答が提言されていないので、立川スタイル“として「提言

内 容

(案)」の”保育の質“が1つの指針になっていくと思う。

また、公立保育所の存在意義を委員と改めて共有できたことは、立川市全体の保育行政から考えて良いことだったと思う。

【委員長】

このような会議で公立保育所の役割をポジティブに、また、中核的、多機能的な役割を担うことを大事なポイントとして出することは珍しく、立川市らしい項目だと感じる。そのことを民間の保育所からの後押しがあることは心強いことだと思う。

保育の質の話では職員の処遇はまさに保育の質に直結することなので、保育士がたびたび変更してしまうのではなく同じ保育士が長く働くことが出来、関係を深めていくことは保育の質のベースになることなので、そのような内容も提言に入れていく必要性を改めて感じた。

【委員】

幼稚園、私立保育所など様々な規模の保育施設がそれぞれの機能を補い合いながら役割をしっかりと担っていることがベースになっていると思う。その担っている保育施設を俯瞰して、ニーズが増えている中で補うことが公立保育所の1つの役割だと思う。そのような役割を24ページ「Ⅱ立川市の保育に関する課題」「(5)公立保育園の役割や、公立保育園に期待すること」に加えていただきたいと思う。

【委員長】

様々な施設がそれぞれの役割を担っていてそれをつなぐ中核的な役割の説明をのせていけると良いと考える。

民間の保育施設と公立保育所がそれぞれを尊重し合う今の立川の状況は大切に貴重なことなので、引き続きお互いを盛り上げて市全体の保育、子育ての発展に繋げていくことを期待する。

【委員】

小規模保育事業としても今後の就学前児童数の動向はとても気になっている。2ページ「Ⅰ立川市の保育を取り巻く現在の状況」「(1)就学前児童の人口推移」では“出生数の減少による0歳児人口の急速な減少がある”と記載されており、27ページ【提言】「最後に」7行目では“乳幼児人口は減少しているが(中略)利用する乳幼児が大幅に減少する見込みは少ない”と現在の状況と今後の見通しがマッチングしていないと感じる。

「提言(案)」25ページ「(5)公立保育園の役割や、公立保育園に期待すること」では公立保育所の意義と役割を新たに認識する中で、“幼稚園との連携強化を期待する”という文言に保育所同士の連携ということも考えていただきたいと思う。

22ページ「②育休明け予約」では定員枠の空き状況が増えている現状では、働きやすい、住みやすい街にするために、立川市は子育てや子どもを預けやすい環境ができていると思うが、就労に関する規定を緩和できるようにすると良いと考える。また、定員枠に空きがある環境があるのならば就労に拘らず預けられるようになると良いと考える。そのことを育休明け予約に関する項目に表現できると良いと思う。

【委員長】

子どもの数、特に0歳児の人口は急速な減少が数字として表れているが、「提言(案)」27ページ【提言】「最後に」7行目“保育所等の利用が必要な保護者の比率は増加しており”にある通り、入所申請率は上がってきている現状がわかりやすいような表現を考える。

25ページ「(5)公立保育園の役割や、公立保育園に期待すること」の“幼稚園との連携強化を期待する”に関しては、公立保育所は今まで幼稚園との関係が少なかったことで、公立保育所と幼稚園の連携強化という表現になっている。小規模保育事業、家庭的保育事業では連携園という取り組みがあるが、連携園だけでなく様々な施設との関わりを持った方がいいのでは、という提案でよいか。また、認可保育所同士でもまだ連携が必要だと感じている。

育休明け予約に関しては、育児休業中など既に就業している人だけではなく、預けられる保育施設等があるならこれから職を探すということも考えられるとよいのではないかと。23ページ「(2)多様な保育サービス」「⑩保育サービス全般」の“様々な保育需要への対応”の記載に“就業等の理由だけではなく”という具体的な文言を入れられないか考えたいと思う。

内 容

【委員】

「提言（案）」27 ページ「最後に」9 行目「また家庭で育児する保護者の需要も高くなっている」の保護者の需要は保護者の「保育の」需要、ではないか。

【委員長】

会議としては今回が最後になるが、委員の意見を反映した形で最終的な提言書を作成するので、委員長、事務局に任せていただきたい。積極的な議論をありがとうございました。

3 【今後のスケジュールについて】

【委員長】

今後のスケジュールについて事務局から願います。

【事務局】

本日の委員会で協議した内容により、最終的な提言書の修正などを行う。この修正や調整は委員長と事務局とで行うのがいいか。最終的な提言書を委員の皆様へ送付した後、市長へ提出しホームページ等で市民の皆様にも公表する予定。

【委員長】

市長に提出するのはいつになるか。

【事務局】

年度内を予定している。

4 【その他】

【委員長】

委員から一言ずついただきたい。

【委員】

市内各保育施設を訪問することが多かったが、その中で本当に各保育施設の職員が一生懸命子どもと向き合っていることを日々実感していた。それがこれからの時代に合った形で良い方向に進んでいくことを願う。この検討委員会に参加させていただいたことを大変ありがたく感謝を申し上げる。委員の皆様のご意見を聞かせていただき改めて勉強になった。ありがとうございました。

【委員】

検討委員会に参加させていただく中で収穫が多かったと思う。特に保護者委員の意見を通して今の時代の母親の思いもよく感じる事ができた。今後、少子化に進んでいく中でどのような方向に子育てを進めていくことが良いかを悩む毎日で、保育課がこのような機会を設けていただき、答申を出すことは非常に画期的だと思う。今後、この検討委員会の意見が施策に結びつくことを願う。ありがとうございました。

【委員】

今まで保育の質ということがあまりテーマとして出てこなかったもので、そのような意味では質への転換という舵取りが行われたように思う。保護者委員のお2人の意見が聞けたことは刺激になった。改めて自分の中で整理しなければならないことがあるのでこれからも頑張っていきたいと思う。ありがとうございました。

【委員】

検討委員会では勉強させていただいた。立川市として子育てをしている方やこれから立川市に来る方などに様々な応援ができたと思う。委員の皆様と知り合いになることができ、この絆を今後の糧に頑張っていきたいと思う。また、子どものためにご尽力いただければと思う。どうもありがとうございました。

【委員】

勉強になることがとても多かった。特に様々なデータはとても参考になった。小規模な保育事業なので狭い感覚でしか見ていなかったと感じた。とても参考になったという実感。委員の皆様のご意見、保護者委員の意見など、小規模保育事業として ICT 化も含めこれで良いのかと悩み続けてきた。また、0 歳、

内 容

1歳、2歳の年齢に対してどうあるべきかとも悩み続け参考にしたいと思いこの検討委員会に参加させていただいた背景もある。とても勉強になって感謝している。市の保育事業への取り組み方の広大さを感じた。また相談させていただきながら小規模保育事業としてどうあるべきか考え続けていきたいと思う。ありがとうございました。

【委員】

立川市の子どもを育ちを支えていく姿勢が本当にわかり、良いデータや様々な角度で子どもの育ちを支えていただいていることを委員の皆さんの意見を聞きながら同意することが多かった。今後さらに勉強を深め自分の施設や地域に少しでも役立てるように頑張っていきたいと思う。ありがとうございました。

【委員】

保育のあり方検討委員会が開催されることは素晴らしいと思う。他市ではなかなか開催に至らないと聞いたことがある。このような委員会を設けていただいたことに感謝している。当事者としての保育所側の意見を聞いて発見がたくさんあった。少子化の現状が私達親世代としてはやはり保育所に入れないことがまだ課題としてあったが、保育所側は少子化が進んでいくと厳しい状況になることを改めて感じた。私達は次の世代の母親や子どもに向けてどのようにすることが良いのか一緒に考えていけたら良いと思う。ありがとうございました。

【委員】

以前勤務していた病院で新病院への移行のための企画室のような部署にいた時の経験から、市役所のこのような委員会の取り組みの中では保護者の意見があまり反映されないのではと消極的に思っていたが、私の性格を知っている夫が向いているからと応募を薦めてくれ参加することが出来た。

現場の先生たちの意見から保育のことを一生懸命考えていることを毎回の検討委員会で胸を打たれた。その時の子どものことだけでなく、小学生に上がった後のことなどまで考えてくださり、保護者のことも考えてくださる人たちがいることをたくさんの保護者にこの思いを届けたい、伝えたいと思った。また、この検討委員会での提言を保護者の方が見ることで、立川市の教育・保育の現場にはこのような考えを持っていることを知ることが出来ると思う。

立川市の1歳児健診などで、保健師さんから今後も立川で育児をしたいですか、と聞かれたことがあるが、その時私はよくわからなかった。でも、このような熱量のある職員がたくさんいると思うと心強く、たくさんの保護者がそのような職員のことを知ることができたら素敵だと思う。ありがとうございました。

【委員】

限られた5回という会議だったが、毎回熱い思いを語っていただき、行政が開催する会議の場でそれぞれの立場で率直な意見をくださり心から感謝する。貴重な話がたくさんあり、委員の皆様への思いの先に描く子どもたちの姿を感じながら参加していた。いただいた提言をどのように活かすかがこれから行政の課題で、特に5回の委員会の中で印象に残ったのは、立川でとても素晴らしい保育が行われていること、子どもたちをたくさんの方が支えている環境があるということ。その素晴らしさをたくさんの方が知ることができるような発信をすることを行政は努力していかなければならないと考えている。今後も立川市の子どもたちのことや保育のことに興味を持っていただき意見を寄せていただければと思う。ありがとうございました。

【委員】

今まで自分の視野が狭かったと感じ、自分の園の運営に追われてしまい市全体のことなどを語る機会がなかったので、今回様々な保育施設の方と話し、様々な角度から意見をいただき、また保護者委員の方からの意見も自分の中で刺激となった。公立保育所は中核的な役割を担っていくことを今までも感じていたが、具体的なことが思い浮かばず、漠然としていた。今回検討委員会に参加することで知り合った委員の皆様と横の繋がりができたので、今回の検討委員会だけでなく他の機会でも繋がっていくことが大切だと思った。

今年度、公立保育所の保育を見直そうということで、私立保育所に見学などをしたが、新型コロナウイルス感染症等の影響で私は見学できなかった。様々な私立保育所での取り組みを自分の園で参考にし

内 容

たいと思うし、今回を機に幼稚園の方々との繋がりを広めていく必要性も感じた。今後ともよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

【委員長】

積極的な意見、議論、ありがとうございます。

立川が今、この保育のあり方検討委員会を開催したのは、本当にこの先のことを考えて市だけでどうにかなるということではなく、市民の皆さん、事業者の皆さんみんなで考えなければならないのだという強い課題と危機感があったと思う。

皆さん、真摯に子どもたちと向き合っているので熱い意見がたくさん出た素晴らしい機会になったと思う。皆さんとやりとりができて自分自身も勉強になった。

会議で周りの方に提言書を見てください、と伝えるだけでなく、このような会議があった、他の先生方はこのように考えている、と広げて行っていただきたいと思います。役所の方から市民に草の根で繋がっていくことで共有していくことができたならより良い関係に繋がる。

「夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議」の子ども政策に関しての総合的な計画を考える会議もあるので傍聴や計画等も読んでいただければと思う。

事務局からその他について説明していただく。

【事務局】

－委員謝礼の事務連絡等－

【委員長】

これで第5回立川市保育のあり方検討委員会を終了する。